



荒尾市立有明医療センター

有明地域の医療の砦へ。 ここから始まる新しい一歩

【建築概要】

(仮称) 荒尾市立有明医療センター

- ①病床数 274床
(内訳) 一般210床、回復期42床、HCU12床、救急10床
- ②建築面積 8,935.85平方メートル
- ③延床面積 26,203.87平方メートル
(内 新病院棟 22,045平方メートル)
- ④構造・階数
鉄筋コンクリート造・免震
(地下1階・地上5階・ヘリポート)

荒尾市民病院は昭和16年の創立以来、70年以上にわたり有明地域の人々の命と暮らしを守る拠点として、良質な医療を提供し続けています。

荒尾市民病院の新病院建設にあたり、病院理念を実現し続けるため、これまで平成26年8月に基本構想を、平成30年6月に基本計画を策定（平成30年8月改訂）し、新病院の果たすべき役割や建設地、施設整備の基本的な仕様などを決定してきました。

これらを踏まえて、建設計画の基本となる建築概要、配置計画、平面計画などを主な内容とする基本設計がまとまりましたので、その概要をご報告します。次ページをご覧ください。

中学生の税についての作文

令和元年度中学生の税についての作文（主催：税を考える週間実行委員会）に、荒尾・玉名地域の中学生から1,496編の応募があり、本市からは次の4人の作品が優秀作品に選ばれました。荒尾市長賞の四中3年・高岡樂さんの作品を紹介します。

●荒尾市長賞

『僕が思うこと』

荒尾第四中学校3年 高岡樂さん

●荒尾市教育長賞

『未来を形成する税』

荒尾第三中学校3年 吉井然さん

●玉名荒尾地区青色申告会連合会会長賞

『税金について』

荒尾海陽中学校3年 牧嶋梨乃さん

●公益社団法人玉名法人会会長賞

『税金の意味』

荒尾海陽中学校3年 末宗エリヤさん



荒尾第四中学校3年
高岡樂さん

『僕が思うこと』
荒尾市長賞

消費税10%に引き上げと聞いたとき、みなさんはどう思いましたか。おそらく大半の人が嫌だと感じたでしょう。なぜなら僕もその一人だからです。どうして増税をしなければならぬのか、そもそも税金は必要なのか僕は疑問に思いました。この疑問こそ僕が税金について関心を持った瞬間でした。

だからこそ、税金について考えてみました。自分の生活を振り返ってみてください。僕たちは学校に通い、教科書を使い授業を受けています。義務教育の間は教科書代、授業料を払うことはありません。これは税金があるからです。また、ケガをしたり病気になるれば病院にかかります。そのときかかる医療費は全体の3割しか払いません。残りの7割は

医療費助成という制度、つまり国民によって収められた税金でまかなわれているのです。このようにして税金は僕たち国民一人一人の為に使われているのです。

しかし、増税は必要なのでしょうか。増税で3%、5%、8%、そして10月から10%と上がってきています。だが、医療費や教育費などの負担が軽減されているわけではありません。増税されたら負担が増えるだけで国民に利益はないように僕は感じます。きっと他にも同じ思いの人が多い理由はここにあるような気がしました。きっと僕たちの目に見えない所で僕たち国民の為に税金は使われているのだと思います。目に見えないから、分からないから、利益がないと思込んでしまいがちです。だから僕は思っています。今回増税すると同時に税金がどこでどのように使われているのかをみんなが分かるようにするべきだと。

考えてみてください。テストを例に考えてみます。テストの順位がでるのは嫌な人は多いと思います。しかし勉強を頑張って順位が上がれば

嬉しいはずですが、目に見えることで今まで嫌だと思っていたことも嫌ではなくなると思えます。税金も同じです。どこでどのように、何の為に使われているのかが分かれば、今まで義務だからしかたなく納税していた人も、考え方が変わるはずですが。

租税教室や増税をきっかけに税金について考えました。税金の大切さは分かりました。しかし、僕にはまだ増税が必要なのか正直分かりません。年齢が上がれば分かるのかも知れませんが、大人だけが知っているダメだと思いません。子供から大人まで、国民全員に税金の使い道がきちんと分かるようにすべきだと僕は思います。今までは影になっていた部分に光を当てることで、税金のありがたさが分かると思います。

まだ分からないこともたくさんあるけれど、僕たちにできることもたくさんあるはずですが、増税という社会の変化がある今だからこそ、税金について関心を持ち、将来、誇りを持って納税ができる大人になりたいです。